

仙台キワニスクラブ 手作り人形で 患者癒やして

東北大病院に寄贈

国際奉仕団体仙台キワニスクラブは22日、医療関係者と小児患者らとの意思疎通に役立つ「キワニスドール」23体を東北大病院（仙台市青葉区）に寄贈した。

会員が手作りした身長約40センチ、体重約500グラムの真つ白人形で、顔には目も鼻もない。子どもの患者の恐怖心を和らげるため、好きな顔や衣服を描いてもらった。医師らが治療の内容を説明したりする。

同病院の緩和ケアセンターでは、AYA世代（15～39歳）のがん患者とその子どもに活用してもらおう予定。井上彰センター長は寄

井上センター長（左）にキワニスドールを贈る菊地会長



贈式で「患者や家族の心のケアが少しでもできるようなにしたい」と感謝した。

仙台キワニスクラブは1971年に設立され、現在の会員は約70人。菊地文博会長は「親子の絆を強めるツールとして、病院で使ってもらえるのはありがたい」と話した。